

子どもたちへの支援に役立つ情報を伝える

中河内ブロック支援通信

第2回 中河内ブロック研修会



今年度第2回目となる中河内ブロック研修会をリアルタイム配信とオンデマンド配信で行いました。東大阪市・八尾市・柏原市の学校園、支援学校、私立学校園の先生方にご参加いただきました。リアルタイム配信76名・オンデマンド配信204名の計280名の先生方にご参加いただきました。参加していただいた先生方、ありがとうございました。

今年度は和歌山大学大学院の武田鉄郎教授をお招きし、「叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチの効用—発達障害のある子どもの『自尊感情』をいかに高めていくか—」というテーマでご講演いただきました。講演では、子どもの主体性や自主性を重んじ、同時にその子どもに寄り添う状態で子どもが「選択」できる状態を設定し、指導・支援する方法についてお話していただきました。映像や具体的な事例を交えながら分かりやすくご講演していただき、子どもの自尊感情を育て可能性を広げる支援の方法について学ぶことができました。



寄り添うけれど言いなりになるのではなく、主導権を握ることも大切だと改めて感じました。これから支援していく上で自分の軸となるような話を聞けたと思います。



次の日から即実践できました。叱らないけど譲らない提案、交渉、選択で子ども自身に気づき、達成感、自信がつき、教師の心にもゆとりを持てると実感しました。

参加者の感想



事例をたくさん挙げていただき、具体的で大変勉強になりました。子どものプラス面に目を向けてそれを伸ばしていくことが大切だと学びました。



自己選択、自己決定の話が特に印象に残りました。また、選択肢の中に「やらない、しない」というものも入れるという点も印象的でした。子どもたちと対話し、子どもたちが相談すればいいんだと感じられるような支援をしていきたいです。



書籍の紹介



『発達障害の子どもの「できる」を増やす提案・交渉型アプローチ —叱らないけど譲らない支援—』
武田 哲郎先生 著

本書は「叱らないが譲らない」提案・交渉型アプローチについて理論的に解説されています。また、活用例がたくさん紹介されています。障害による学習上または生活上の困難があり、二次的に心身症や行動上の問題、適応の問題を抱える子どもたちの事例を挙げて、学校などの現場でかかわっている人がそれぞれ具体的に論じています。子どもたちの療育、教育にかかわる多くの方にぜひ読んでいただきたい1冊です。



☆アンケートの質問に武田先生から回答をいただきましたので紹介します。(一部抜粋)

Q:学校現場での考え方の違いについて。チームとして同じ見方で子どもに関わっていないです。同じ見方で関わるチーム作りについてアドバイスいただきたいです。

武田先生より:基本的には、子どもとの関係性が大きく影響してきます。A先生はA先生なりに寄り添おうとして行ったことです。B先生はB先生で行ったことです。どちらも間違ったことはしていないかもしれませんが、しかし、子どもが自己選択・決定しているかどうか、いくつかのポイントの詳細が分からないのでこれ以上言及はしません。

教員がチームで子どもを指導・支援していくときに、全員が同じ価値観、同じ指導・支援法で行うことは実際にはほとんどないものと思います。以下は、支援された意思決定、チームの構築についてです。参考になれば嬉しいです。

教員チームの構築のためのプロセス

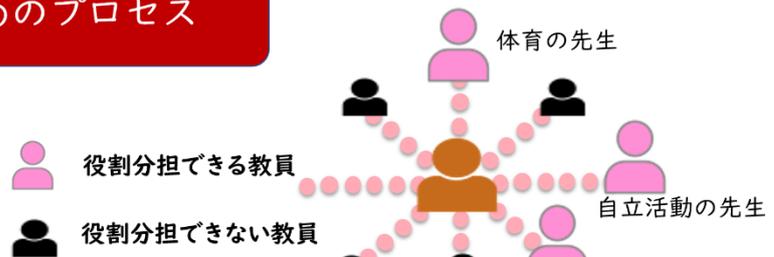
支援された意思決定には教員のチーム対応が重要

自信がないために「しない」「する」の狭間で「しない」ことを選択していた生徒に寄り添い提案・交渉し、可能性を高める。

「面倒くさい」という生徒の言葉に込められた思いに寄り添い可能性を広げる

「できない」不安を解消するための「できる」流れをつくる

「いやだ」「面倒くさい」という生徒の言葉に込められた思いに寄り添い可能性を広げる



エピソード1 チーム対応実践
自立活動の授業に行かないと言っていたが、「見学」という参加で授業教室と一緒に行くことができた。担当の教師と見学場所を決め、授業教室で見学し、友だちが学習している様子を見ていた。A君は、その時間、教室で、一人過ごすのではなく、その授業にみんなと一緒に参加することができた。**事前に見学することを自立活動の先生に指導者が相談し了承を得ることがポイント。**

エピソード2 チーム対応実践
体育の時間において「体育は嫌い」と言っていたが、「見学」という形で承諾し、体育館に行く。体育館の際に、体育館に友だちと一緒に行って体育館で行ってグループ(本来A君が活動のするグループ)の活動を見学することができた。**事前に見学することを指導者が体育の先生に相談し、了承を得ることがポイント。**

エピソード1, 2から体育の先生と自立活動の先生と担任の先生の教員チームが構築していくことができたことが明らかになった。

自尊感情を高め、関係性の中で提案・交渉していく中で自身の意思形成、表明、実現する力を育てて行く

意思形成支援 → 意思表明支援 → 意思実現支援

支援された意思決定

自信がないために「しない」「する」の狭間で「しない」ことを選択していた生徒に寄り添い提案・交渉し、可能性を高める。

大人の価値(やらせたい)を押しつける

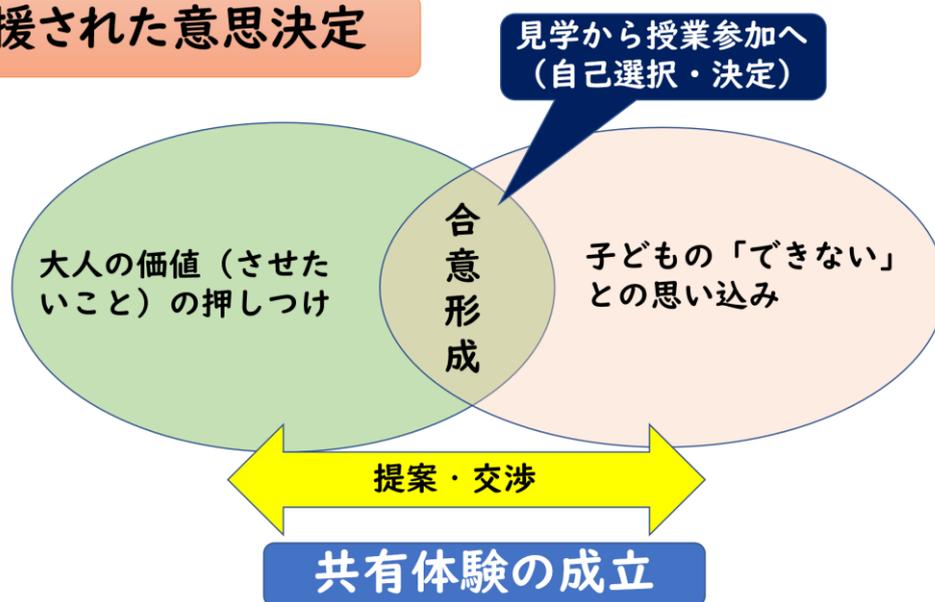
一見受容的に見えるが、子どもが「やらない」をそのまま容認し、見放す

子どもの意思形成を軽んじて、親や教師の思い通りにさせようとする大人の思い

「面倒くさい」という生徒の言葉に込められた思いに寄り添い可能性を広げる
「できない」不安を解消するための「できる」流れをつくる
「いやだ」「面倒くさい」という生徒の言葉に込められた思いに寄り添い可能性を広げる

子どもがやらないと言ったらその通りにし、可能性を狭めてしまう教師や親

支援された意思決定



Q:嫌な授業を抜けがちの生徒に関してです。もしASEBAを受けてその結果が正常値のみになったとすると、その子の行動はわがままになってしまうのでしょうか。

武田先生より:嫌な授業を抜けがちの生徒に関してですが、私のコンサルテーションの経験から言うと、抜け出す授業に対しては何らかのトラウマや分からないというなんとも言えない辛い経験が過去にあったことがほとんどです。わがままで授業を飛び出すというケースは見たことがありません。飛び出すには飛び出すだけの理由があります。行動観察や過去のエピソードからその理由を探ってみたり、分からないことであれば本人が理解しているところから学習をスタートさせたりしてみてください。

Q:学校現場ではコンプライアンスの形式も必要かと思います。何事にも合意形成が必要なのでしょうか？例えば、朝の準備など身辺自立の場面では手取り足取り教えた後に、やるべきことやりますよという相手の指示に従う力も必要なのでは？と思います。相手の指示に従う力（決定権がない）と提案交渉アプローチ（決定権が子ども）の使う場面の線引きなどあれば教えていただきたいです。特に支援学校小学部だと、保護者から言うこと聞かなくて困ってる＝主導権が子どもの状態が多いです。その時は先にコンプライアンス形成をすべきですか？

武田先生より:コンプライアンスとは「法令遵守」と訳するのが一般的ですが、コンプライアンスで守るべきものには法律以外にも、社会的規範やモラル、ルールなども含まれます。「社会的規範やモラル、ルールに従うことは確かに大切であり必要です。提案・交渉型アプローチを全ての行動に行うことはありません。

提案・交渉型アプローチの定義は、子どもが「できない」「わからない」「認めてほしいけど・・・」など立ち往生したときに行うことです。日々のルーティーンと、子どもが「できない」「わからない」「認めてほしいけど・・・」など立ち往生したときと区別された方がよいかと思います。

イニシアチブは、大人にあることが大切なことは講演の時もお話したと思いますが、選択決定は子ども自身が行います。



武田先生より、最終講義のご案内です。

武田先生のお話を聞ける貴重な機会です！

2023年2月2日

学校長
幼稚園長様
関係皆様

和歌山大学教育学部
和歌山大学教育学部特別支援教育学教室

和歌山大学教育学部 武田鉄郎教授 最終講義(オンライン)のご案内

新春の候 貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。併せて、日頃より和歌山大学教育学部特別支援教育学教室の事業にご理解と支援をいただいていることを心より感謝申し上げます。

このたび、武田鉄郎教授が令和5年3月末をもちまして、定年退職の節目を迎えられることになりました。長年にわたる研究ならびに教育分野での多大なご貢献に心より敬意を表すとともに、これからの益々のご健勝とご活躍を祈念しまして、最終講義を下記の通り開催いたします。

ご多用の折と存じますが、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、恐れ入りますが、最終講義に関しまして、地域の教員等の皆様にご周知いただきますようお願い申し上げます。

記

1 最終講義

テーマ: ストレス対処過程と認知的評価の変容-『あきらめさせない』指導・支援のあり方を考える-

ストレス対処理論から『あきらめさせない』ことの意味を再考し、「提案・交渉型アプローチ」の有効性について、事例を通して検証していく予定です。

日時: 令和5年3月18日(土) 13:30~15:30

開催形式: オンライン(zoom)



2. 参加するための手続き(希望される方はどなたでも参加可能です)

1. 参加される方は、下記の URL からお申込みください。

<https://forms.gle/q4IKdgHfk9DZvPsM8>

以上

2. 申し込み締め切りは、3月10日(金)17時とさせていただきます。

※当日は、後日お知らせする URL または Zoom の Web サイトよりご入室ください。

問い合わせ先: 和歌山大学教育学部特別支援教育学教室
〒640-8510 和歌山市栄谷 930 和歌山大学教育学部特別支援教育学教室
Email: info-seforum@ml.wakayama-u.ac.jp